

⑦ 屈折異常と斜視弱視 (才) 斜視弱視

斜視・弱視について

斜視も成長する？

子どもの視力は成長します。

生まれたばかりの赤ちゃんは、明るいか暗いかぐらいしか分かりません。しかし、1カ月くらいでもものの形が、2カ月くらいで色が分かるようになります。さらに4カ月になると、動くものを追って目を動かせるようになります。そして、6歳くらいにはおとなと同じくらいの視力を持つようになります。

視力の発達にはものを見るのが大切です

子どもの視力が発達するためには、毎日ものを見ている必要があります。これは目から受けた刺激を、脳が正しく理解するのに、訓練が必要だからです。訓練といっても、特別なことをするわけではありません。目を開けていろいろなものをみているうちに、目からの刺激を脳が正しく理解するようになるのです。

斜視とは？

ふつう、ものを見るときには、右目も左目も両方の目が、見ようとするものの方向に向いています。ところが、片方の目が見ようとするものを見ているにも関わらず、もう片方の目が目標と違う方向を向く場合があります。これを斜視といいます。斜視は子どもの2%くらいにみられる病気です。

斜視の種類

斜視は目の位置によって、内斜視、外斜視、上斜視、下斜視に分けられます。

右目を正常な位置とした斜視の種類



内斜視 左目が内を向いている

外斜視 左目が外を向いている

上斜視 左目が上を向いている

下斜視 左目が下を向いている

どうして斜視になるの？

斜視の原因として、次のようなものがあります。

目の筋肉や神経などの異常

目を動かす筋肉や神経にわずかの異常があると、目の位置がずれ、両目が一緒に正しくものを見ることができず、斜視になります。

両眼視の異常

遺伝や脳の一部のわずかな異常が原因で、両眼視がうまくできない場合、それぞれの目がばらばらな方向を見るようになり、斜視になります。

遠視

目はものを見るときにそのものにピントあわせを行います。近くを見るときには、目は内側によります。遠視では、強くピントあわせを行わないと、はっきりと見えないため、目はかなり内側によってしまい、斜視になる場合があります（内斜視）。

視力不良

病気やけがで、片方の目の視力が悪くなると、両眼視ができず、視力の悪い目が斜視になる場合があります。大抵の場合、その目は外側を向きます（外斜視）。

両眼視とは？

両眼視とは、2つの目で見たものを脳で1つにまとめる働きのことです。両眼視ができないと、ものが二重に見えたりするばかりでなく、立体感を感じることもできません。両眼視は生後1年くらいでできるようになり、6歳くらいには完成します。

斜視はどうやって調べるの？

斜視は両目の向きが異なるため、少し気をつけると、家族の方が見ても分かります。斜視は早期に治療しないと、弱視やものが二重に見える複視の原因になりますので、斜視に気がいたら、はやく眼科を受診しましょう。

斜視はどうやってなおすの？

斜視の原因が遠視の場合には、通常、凸レンズのめがねをかけて、遠視を矯正します。時には調節を改善する目薬を用いることもあります。また、原因が遠視以外の場合には目の筋肉を調節する手術を行うことがあります。手術は通常、点眼麻酔で短時間で終わりますが、乳幼児の場合には、全身麻酔で行います。ただし、手術で目の向きをなおしても、両眼視ができない場合がたまにあり、この場合には両眼視のための訓練を行う必要があります。また、斜視から弱視になっている場合には手術の前や後に弱視の視力増強訓練を行う必要があります。

偽斜視

あかちゃんは、鼻が低くて、その根元が十分に発達していないために、両方の目の間が広がっており、白目の内側が見えない場合があります。外見上は内斜視のように見えますが、本当は斜視ではありません。これを偽斜視といいます。偽斜視は鼻の根元が成長するに従って、内斜視のように見えていたものが、正常に見えるようになります。

弱視とは？

こどもの目の発達には、たえずものを見る訓練が必要であることは、先にのべました。それでは、もしこどもの視力が発達する途中で、たえずものを見る訓練ができなかったらどうなるのでしょうか？この場合、視力の発達は抑えられ、止まってしまいます。これを弱視といいます。近視でめがねをかけると見えるようになる場合は弱視とはいいません。

どうして弱視になるの？

弱視はものを見る訓練ができないと起こりますが、ものを見る訓練ができない状態になる原因としては以下のようなものがあります。

斜視

斜視があると、両眼視ができないため、ものが二重に見えます。ものが二重に見えると、脳が混乱するため、斜視になっている片方の目を使わないようになり、使わない方の目が弱視になる場合があります。これを斜視弱視といいます。

遠視

遠視があると、近くを見るときも、遠くを見るときもはっきりと見えないため、視力が発達せず、弱視になる場合があります。

その他

生まれつき、白内障などの目の病気がある場合、あるいは乳幼児期に眼帯を長い間（3～7日間程度）つけたりした場合、ものを見る訓練ができず、弱視になる場合があります。

弱視はどうやって調べるの？

斜視と違い、弱視は保護者の方が注意していても分からないことがままあります。特に片方の目だけが弱視の場合、よい方の目で普通に見ているため、気がつかないことが多いようです。3歳児健診の視力検査を必ず受けるようにしましょう。

弱視はなおるの？

視力の発達が抑えられている期間の長さや程度によって、よくなる場合とならない場合があります。3歳くらいまでに見つかり、なおる可能性は高くなります。弱視をなおす方法としては、遠視が原因の場合には遠視用のめがねをかけます。その他の場合は弱視の視力増強訓練を行う必要があります。弱視の視力増強訓練は遮閉法という方法で行います。遮閉法はふつうよい方の目を隠すことによって、弱視の目を無理に使わせようとする方法です。この方法は病院だけではなく、家庭でもずっと行わないと意味がありませんので、家族の協力が必要となります。遮閉法を行うときには眼科医の指示に従いましょう。また、4歳児以上では視能訓練士による器械を利用した訓練を行います。

家庭で弱視を発見するには・・・

テレビを前の方で見る

目を細める

いつも頭を傾けてものを見る

など、いかにもものを見にくそうにしている場合には注意しましょう。また、片目がよく見える場合には、なかなか気づかないので、片目を隠してカレンダーや時計を見せてみましょう。少しでも異常に気がついたときは必ず眼科を受診しましょう。

まとめ

目の機能の発達にもっとも大切なのは幼児期で、家族の方のちょっとした注意で斜視や弱視が見つかることもあります。神経質になりすぎる必要はありませんが、少しでもおかしいと思ったら、必ず眼科医に相談しましょう。

資料参照『参天製薬—目の健康「斜視弱視の話」』を引用させて頂きました。